

■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）Ver. 3

	するために必要な技能を身に付け、表している。	
--	------------------------	--

(改善等通知 別紙5 P.3, 4)

4 書道Ⅰの目標と評価の観点及びその趣旨

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のように育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
目 標	書の表現の方法や形式, 多様性などについて幅広く理解するとともに, 書写能力の向上を図り, 書の伝統に基づき, 効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ, 意図に基づいて構想し表現を工夫したり, 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え, 書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み, 生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに, 感性を高め, 書の伝統と文化に親しみ, 書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(高等学校学習指要領 P.157)

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式, 書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに, 書の伝統に基づき, 作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け, 表している。 	書のよさや美しさを感じ, 意図に基づいて構想し表現を工夫したり, 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え, 書的美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料「高等学校芸術（書道）P.86」を参考に作成

5 内容のまとまりにおける単元構成

「A表現」(2)「漢字の書」総時間数 32時間

単元① <楷書>書風と結構法（孔子廟堂碑、九成宮禮泉銘）	全4時間	【本単元】
単元② <楷書>書風と線質〔筆圧の変化〕（雁塔聖教序、顔氏家廟碑）	全4時間	
単元③ <楷書>書風と線質〔円筆・方筆〕（牛橛造像記、鄭義下碑）	全4時間	
単元④ <楷書>楷書の創作	全4時間	
単元⑤ <行書>行書の運筆の基本と書風（蘭亭序、風信帖）	全4時間	
単元⑥ <行書>行書の創作	全4時間	
単元⑦ <篆書>篆書の用筆法・運筆法（泰山刻石）	全2時間	
単元⑧ 篆刻	全6時間	

6 単元の目標

※ここでは複合的な単元を例に示したため、「技能」を除く各資質・能力について、「A表現」「B鑑賞」それぞれに関する目標を設定している。また、学習指導要領の内容を本単元の学習に即した内容に置き換えたり、複数項目を1項目にまとめたり、扱う古典に応じて項目を増やしたりして単元の目標を作成することが考えられる。（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）p53～55参照）

(1) 「知識及び技能」

○知識

- ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。（「A表現」に関する内容）
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。（「B鑑賞」に関する内容）

○技能

※ここでは新しい評価の考え方に基づいて、二つの古典を一つの単元で扱う上で、双方の古典について評価を行うため、「技能」についてのみ「A表現」の目標を扱う古典ごとに2項目としている。

- ・孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。（「A表現」に関する内容）
- ・九成宮禮泉銘に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。（「A表現」に関する内容）

(2) 「思考力, 判断力, 表現力等」

- ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。（「A表現」に関する内容）
- ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。（「B鑑賞」に関する内容）

(3) 「学びに向かう力, 人間性等」

- ・自身の表現の意図に基づく表現、書体や書風に即した表現の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。（「A表現」に関する内容）
- ・書のよさや美しさを感じ、鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。（「B鑑賞」に関する内容）

7 内容のまとめりとごとの評価規準

※ここでは複合的な単元を例に示したが、「A表現」または「B鑑賞」のどちらか一方のみで単元を設定することも考えられる。

「A表現」(2)漢字の書 及び「共通事項」(1)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[共通事項] ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。	・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 ・意図に基づいた表現について構想し工夫している。	主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。
・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。		

■全高書研公開用 事例①（書道 I） Ver. 3

<ul style="list-style-type: none"> ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ・古典の線質・字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。 		
---	--	--

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.87 を参考に作成

「B鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ・漢字の書体の変遷，仮名の成立等について理解している。 ・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 		

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.88 を参考に作成

8 単元の評価規準

※ここでは複合的な単元を例に示したため、「技能」を除く各観点について、「A表現」「B鑑賞」それぞれに関する目標を設定している。

※また、新しい学習評価の考え方に基づいて、例えば二つの古典を一つの単元で扱う際、「技能」についてのみ、古典ごとに記録に残す評価をすることが可能となるよう、ここでは古典ごとの評価規準を設定した。また、学習指導要領の内容を本単元の学習に即した内容に置き換えたり、2項目を1項目にまとめたり、項目を扱う古典に応じて増やしたりして作成することも考えられる。（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校芸術（書道）p 53～55 参照）

(1)知識・技能

○知識

- ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。（知表）
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。（知鑑）

○技能

- ・孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。（技）
- ・九成宮禮泉銘に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。（技）

(2)思考・判断・表現

- ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。（思表）
- ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。（思鑑）

(3)主体的に学習に取り組む態度


- ・自身の表現の意図に基づく表現、書体や書風に即した幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。（態表）
- ・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。（態鑑）

9 指導と評価の計画

・年間授業時数・・・ 70 時間 ・「漢字の書」・・・32 時間 ・本単元の配当時間・・・ 4 時間

(1) 指導と評価の計画（概要）

単元	時間	学習活動	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
			知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑
「漢字の書」単元①	第1次 (2時間) (本時)	本単元の見通し 本次の見通し①							
		鑑賞①（孔子廟堂碑）		↓			↓		↓
		観点の確認①（書を構成する要素）	↓			↓			
		構想・工夫①							
		作品制作①			↓				
		相互鑑賞・意見交換①							
		構想・工夫の見直し①	○			○			
		作品制作②			↓				
		相互鑑賞・意見交換②							
		自己評価①							○
		学習のまとめ①		↓	↓		↓	↓	↓
	◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価	○		○	○		○		
	第2次 (2時間)	本次の見通し②							
		鑑賞②（九成宮醜泉銘）		↓			↓		↓
		観点の確認②（書を構成する要素）	↓			↓			
		構想・工夫②							
		作品制作③			↓				
		相互鑑賞・意見交換③							
		構想・工夫の見直し②	●			●			
		作品制作④			↓				
		相互鑑賞・意見交換④		●					
		自己評価②							●
学習のまとめ②			↓	↓		↓	↓	↓	
単元の学習のまとめ		↓	↓		↓	↓	↓		
◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価	●	●	○	●	●	●	●		

※「」は評価場面の連続性を示す。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料「高等学校芸術（書道）P.58」を参考に作成

（2）本単元における観点別学習状況の評価方法

※ここでは○「おおむね満足できる」状況(B)、◎「十分満足できる」状況(A)、◆「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立てを示しているが、これはあくまでも例であり、必ずしもこの評価方法で評価しなくてはならないわけではなく、評価方法については、授業内容や授業展開、生徒の学習状況等を考慮して各都道府県の様式に従って作成することになる。

評価の観点と単元の評価規準		○「おおむね満足できる」状況(B)の例 ◎「十分満足できる」状況(A)の例 ◆「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立て
知識・技能	知表	<ul style="list-style-type: none"> ○表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、おおむね理解している。 ◎表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、構想・工夫したり言語化したりする活動を通して実感的に理解している。 ◆他者の意見の活用の仕方を例示するなどして、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて実感的に理解できるよう支援する。
	知鑑	<ul style="list-style-type: none"> ○表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて、おおむね理解している。 ◎表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて、相互鑑賞・意見交換したり言語化したりする活動を通して実感的に理解している。 ◆ICTを活用して、書風を形づくる「字形」、文字構成の「構成」等の要素と表現効果や風趣との関わりを理解させるなどして、線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて実感的に感受し、理解できるよう支援する。
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ○孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ◎孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆から生まれる「線質」を生かして、表現の技能をおおむね身に付け表している。 ◆学習活動を振り返らせたり、ICTを活用して動画や画像を再度確認させたりして、自身の表現の意図、構想と関連付けて実感的に捉えて表すことができるよう支援する。
		<ul style="list-style-type: none"> ○九成宮禮泉銘に基づく基本的な用筆・運筆から生まれる「線質」を生かして、表現の技能をおおむね身に付け表している。 ◎九成宮禮泉銘に基づく基本的な用筆・運筆から生まれる「線質」を生かして、表現するための技能を身に付け、作品に表し、表現性と表現効果等を生かして効果的に表現を工夫する中で、技能を更に高め、表している。 ◆学習活動を振り返らせたり、ICTを活用して動画や画像を再度確認させたりして、自身の表現の意図、構想と関連付けて実感的に捉えて表すことができるよう支援する。
思考	思表	<ul style="list-style-type: none"> ○古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について自身の表現の意図に基づいて構想し、表現を工夫

・判断・表現	字形、全体の構成について構想し工夫している。	するとともに、おおむね自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。 ◎古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について自身の表現の意図に基づいて深く構想し、表現を工夫するとともに、知識を活用して自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。 ◆意見交換で得られた他者の感じ方や捉え方、考え方を参考にしたり、これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し、古典の書体や書風に即した用筆・運筆から生まれる「線質」、書風を形づくる字形、全体の構成について理解させ、構想・工夫とその再構築に取り組めるよう支援する。
	・作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。	◎作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉え、おおむね自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。 ◎作品の価値とその根拠について自らの生活と関わらせて考え、書の高さや美しさを深く味わって捉えるとともに、自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。 ◆自身の学習過程の振り返りとそれに対する自己評価の方法を例示し、書を構成する要素（「字形」「構成」と表現効果との関わりについて理解させるなどして、作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉える活動に取り組めるよう支援する。
主体的に学習に取り組む態度	・自身の表現の意図に基づく表現、書体や書風に即した表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	◎自身の表現の意図に基づく表現、書体や書風に即した表現をする幅広い表現の学習活動に、おおむね自らの学習を調整しながら粘り強く取り組もうとしている。 ◎自身の表現の意図に基づく表現、書体や書風に即した表現をする幅広い表現の学習活動に、計画的に自らの学習を振り返り、適切に調整を重ねながら主体的に粘り強く取り組もうとしている。 ◆学習した書を構成する要素（「字形」「構成」）、用具・用材の特徴と表現効果との関わり、自身の取組の経緯を振り返らせ、既得の知識と技能を生かして、書体や書風に即して表現を工夫して表したいと思えるように支援する。
	・書の高さや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	◎書の高さや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に、主体的に粘り強く取り組もうとしている。 ◎書の高さや美しさを感受し、古典の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に、計画的に自らの学習を振り返り、適切に調整を重ねて主体的に粘り強く取り組むとともに、生活や社会との関わりや自身の人生とも関わらせて幅広い視野から書を捉えて深く考えようとしている。 ◆学習した書を構成する要素（「字形」「構成」）、用具・用材の特徴と表現効果との関わり、自身の取組の経緯、相互鑑賞・意見交換での他者の感じ方や捉え方、考え方を振り返らせ、古典の意味や価値について考え、書の高さや美しさを感受し、主体的に鑑賞の学習活動に臨みたいと思えるように支援する。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校芸術（書道）P. 61～63 を参考に作成

■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）Ver. 3

（3）観点ごとの実現状況等を見取る（見取ることができる）方法（評価対象と学習活動）

※ここでは観点ごとの実現状況等を見取る（見取ることができる）方法を示しているが、これはあくまでも例であり、必ずしもこの通りの方法で見取らなくてはならないわけではなく、授業内容や授業展開、生徒の学習状況等を考慮して授業者が決めることになる。

ア「知識・技能」

（ア）知識

【知表】・・・（評価対象）ワークシート
（学習活動）「観点の確認」「構想・工夫」「構想・工夫の見直し」
「自己評価」

【知鑑】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子
（学習活動）「鑑賞」「相互鑑賞・意見交換」「学習のまとめ」

（イ）技能

【技】・・・（評価対象）作品
（学習活動）「作品制作」

イ「思考・判断・表現」

【思表】・・・（評価対象）ワークシート
（学習活動）「観点の確認」「構想・工夫」「構想・工夫の見直し」
「自己評価」

【思鑑】・・・（評価対象）ワークシート
（学習活動）「鑑賞」「相互鑑賞・意見交換」「学習のまとめ」

ウ「主体的に学習に取り組む態度」

【態表】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子、ICT成果物
（学習活動）「本単元の見通し」「本次の見通し」「観点の確認」
「構想・工夫」「作品制作」「構想・工夫の見直し」「自己評価」

【態鑑】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子
（学習活動）「本単元の見通し」「本次の見通し」「鑑賞」
「相互鑑賞・意見交換」「学習のまとめ」

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校芸術（書道）P. 56、57 およびP. 59、60 を参考に作成

■全高書研公開用 事例①（書道 I） Ver. 3

(4) 本時における学習過程と評価の方法の具体

※ここでは学習計画（例）の指導上の留意点に生徒への支援例を示しているが、これはあくまでも例であり、必ずしもこの通り記述しなければならないわけではなく、各学校や生徒の実態に合わせて必要な支援を記述することになる。

※本事例では評価の方法に「観」や「ワ」のみの記述で●や◎を付さない箇所があるが、これはその学習活動に関連する評価場面として付したもので、必ずしも評価しなければならないわけではなく、実際に学習計画を作成する場合、「観」や「ワ」の記述や、●や◎の観点や評価については、授業内容や授業展開、生徒の学習状況等を考慮して授業者が決めることになる。

※本事例では参考として a と b 2 種類の学習計画を示したが、必ずしもこのどちらかで記述しなければならないわけではない。

a <楷書>書風と結構法（「漢字の書」単元①）（2時間）の学習計画

時 間	活動の 流れ	ねらい・学習活動	指導上の留意点 「・」指導上の留意点 「◆」支援内容	評価の方法							
				◎指導に生かす評価			●記録に残す評価				
				「観」活動の様子		「ワ」ワークシート		「作」作品		「I」ICT成果物	
知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度						
知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑					
第1次 導入	15分	○本単元の見通し 本次の見通し① ・本単元の流れ及び本次の学習活動を確認し、本単元、及び本次で身に付けたい資質・能力など、自身の学習の見通しについて考え、タブレットで「学びの記録」の「本単元の学習に向けて」「本次の学習に向けて」に記録する。	・本単元の流れ及び本次の学習活動について、パワーポイントで示しながら確認させ、生徒が単元の見通しをもって学習活動に取り組むことができるように支援する。 (ICTの活用)						観	観	
		○鑑賞① ・古典のよさや美しさを直感的に感受し、中学校国語科の書写で学習・習得した知識・観点を生かして書風を捉え、言語化してワークシートに記入する。 ・孔子廟堂碑の歴史的背景やその価値を理解する。	・他の古典の拡大画像を活用することで、初見の古典に対しても書風を捉えやすくさせ、それぞれに感じ方や捉え方、考え方を働かせながら直感的な鑑賞に臨めるよう働きかける。(ICTの活用)		観			ワ			ワ
		○観点の確認① ◎書を構成する要素（字形・構成等） ・中学校国語科の書写で	・全景画像や拡大画像を提示して文字及び文字群の造形の特徴をわかりやす	ワ			ワ			観	

		<p>学習・習得した知識・観点を確認し、新たな観点を理解する。構成のうち、特に結構法の観点（向勢及びその特徴に基づく点画の形状等）から孔子廟堂碑の書風と用筆・運筆との関わりを捉え、その表現性と表現効果について考え、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。 （グループ）</p>	<p>くしたり、他の古典の画像を提示して書風を比較したりして、孔子廟堂碑の書風と用筆・運筆との関わりを大きな視点で捉え、その表現性と表現効果について考えられるよう働きかける。 （ICTの活用）</p>					
展 開	75 分	<p>○構想・工夫①</p> <ul style="list-style-type: none"> 孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想、その実現のための表現の工夫について、観点の確認で新たに習得した知識・観点を生かして考え、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「鑑賞①」及び「観点の確認①」で直感的に捉え感じ取った古典の書風と用筆・運筆との関わりを「観点の確認①」で新たに習得した書を構成する要素（字形・構成等）とそこから生じる表現性と表現効果を踏まえ活用して構想・工夫に取り組めるよう働きかける。 	ワ		ワ		観
		<p>○作品制作①</p> <ul style="list-style-type: none"> 書風と書を構成する要素（字形・構成等）とそこから生じる表現性と表現効果を踏まえ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想の実現のために表現を工夫して作品を表し、作品の写真データをタブレットで「学びの記録」の「作品制作①」に貼付するとともに、表現の工夫をしたことについて記録する。（半紙2字） 	<ul style="list-style-type: none"> 自身が作品を表している様子を動画で撮影させ、構想・工夫の実現状況を自ら調整しながら制作に取り組むよう働きかける。 （ICTの活用） 示範動画や事例を示して、表現活動を通して用具・用材の特徴と古典の書風及び用具・用材の特徴と表現効果との関わりについても理解が深まるよう働きかける。 （ICTの活用） 		作 ◎			I
		<p>○相互鑑賞・意見交換①</p> <ul style="list-style-type: none"> 孔子廟堂碑の書風と用筆・運筆との関係を再度確認し、見方・考え方を働かせて、他者との作品の共有・相互鑑賞を行い、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図、意図に基づく構 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の作品や意見を認め合い、尊重する姿勢で活動するよう働きかける。 意見交換においては、それぞれの感じ方や捉え方、考え方を伝え合い、互いに他者の考え方を尊重しながら、自身の感じ 			ワ		ワ

<p>想と、その実現のための表現の工夫等について相互に考えを伝え合うことで、新たな感じ方や捉え方、考え方に触れ、それぞれが自身の感じ方や捉え方、考え方を見直し、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。 (グループまたは全員)</p>	<p>方や捉え方、考え方を広げられるよう働きかける。 ◆孔子廟堂碑の書風を捉えられていない生徒に対しては、孔子廟堂碑の書風と他の古典の書風とを比較して捉えられるよう画像等を活用して示し、孔子廟堂碑の書風と用筆・運筆との関係を再度確認させ、用筆・運筆から生み出される表現性と表現効果との関係について理解できるよう支援する。 (ICTの活用)</p>				
<p>○構想・工夫の見直し① ・相互鑑賞・意見交換を通して広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図、意図に基づく構想、その実現のための表現の工夫を見直し、必要な修正と新たな課題を適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。</p>	<p>・示範動画と作品制作①で撮影した自身の動画とを比較するなどして、広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせながら、既得の知識・観点を活用して古典の書風を分析的に捉えることで、用筆・運筆から生み出される書の表現性と表現効果との関係について理解できるよう働きかける。 ・古典の書風を、字形や点画の形状等の視点からのみ捉えるのではなく、用筆・運筆（書における運動性）の視点からも捉えられるよう働きかける。 (ICTの活用) ◆他者の意見の活用の仕方や、それを生かした構想・工夫の見直しの手順がスムーズに行えない場合には、活用の仕方を例示するなどして、段階的に必要な支援を行う。</p>	ワ ◎		ワ ◎	観
<p>○作品制作②（清書） ・構想・工夫の見直しを踏まえ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想の実現のために表現を工夫して作品を表し、作品の写真データをタブレットで「学び</p>	<p>・見直した構想・工夫に基づき、表現を工夫するために、示範動画（や自身の動画）を確認させるなどし、構想の実現に向けた表現活動に取り組めるよう働きかける。 (ICTの活用)</p>		作 ●		観

	<p>の記録」の「作品制作②」に貼付するとともに、表現の工夫の見直したしたことについて記録する。</p>						
	<p>○相互鑑賞・意見交換②</p> <ul style="list-style-type: none"> 見方・考え方を働かせて、孔子廟堂碑の清書作品の共有・相互鑑賞を行い、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図に基づく構想の実現状況や、その実現のための表現の工夫の成果等について相互に考えを伝え合い、それぞれが自身の感じ方や捉え方、考え方を更に広げ、新たな考え等を適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。（グループまたはクラス全体で実施） 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の一斉掲示による共有（大画面での共有、個々のタブレットでの共有等）により、より多くの他者との相互鑑賞・意見交換できる環境を用意し、自身の学習の成果を見つめ直すとともに、それぞれに他者の学習の成果を認め合い、書のよさや美しさ、作品の意味や価値についても考えられるよう働きかける。（ICTの活用） 	ワ			ワ	ワ
	<p>○自己評価①</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身の制作と構想・工夫の過程を振り返り、作品の変化や表現の工夫の経緯、身に付けた知識と技能を改めて見つめ直すとともに、見方・考え方を働かせて、完成した作品（清書）とその制作過程について振り返り、広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせながら自身の表現の意図に基づいて表現できたか、孔子廟堂碑の書風に即して作品を表すことができたか自己評価を行い、適切な用語を用いて言語化し、タブレットで「学びの記録」の「表現学習の振り返り」に記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の学習過程の振り返りが、次時以降の学習への見通しに繋がられるよう働きかける。 ◆自身の学習過程の振り返りとそれに対する自己評価を適切に行えない場合には、振り返りと自己評価の方法や観点について例示するなどして、今後の学習活動での振り返り、自己評価に繋がられるよう段階的に支援する。 	ワ			ワ	ワ ◎
まとめ 10分	<p>○学習のまとめ①</p> <ul style="list-style-type: none"> 本次の学習を振り返り、本次の学習内容、その中で併せて学習してきた〔共通事項〕の 	<ul style="list-style-type: none"> 本次の学習を振り返らせ、本次の学習を通して習得した知識や技能、学習の中での思考・判断の 	ワ			ワ	ワ

		<p>内容について改めて確認するとともに、自他の表現した作品の意味や価値について考え、学習成果を生活や社会の中で生かすことについて、主体的に考え、適切な用語を用いて言語化し、タブレットで「学びの記録」の「鑑賞学習の振り返り」に記録する。</p>	<p>過程、学習の中で働かせ広げた感じ方や捉え方、考え方について改めて確認させることにより、自身の学習の成果を実感させるとともに、自他の表現した作品の価値とその根拠について主体的に考え、作品の意味や価値について考えたり、学習成果を生活や社会の中で生かしていきたいと主体的に考えたりできるよう働きかける。</p>								
<p>◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価</p>			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
<p>【評価の方法の具体】 ここでは主に、単元の目標及び評価規準、評価方法の内の1項目である「孔子廟堂碑」について評価することとして評価の方法の具体を示した。</p> <p>知表◎：＜構想・工夫の見直し①＞表現の工夫を見直し修正する活動を通して、既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点（書体や書風と用筆・運筆との関わり）、併せて学習してきた〔共通事項〕の内容（時間性と運動性）について理解し、活用して、適切な用語を用いて言語化したりする中で実感的に理解している状況を、ワークシートの「構想・工夫の見直し①」の記述内容から見取り、ワークシートにアドバイスを記入して次時で返却するとともに、よい知識の活用例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。</p> <p>技 ◎：＜作品制作①＞作品制作を通して、表現の意図及びそれに基づく構想の実現に向けた表現活動で表現を工夫する中で、孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆等の表現の技能を身に付け表している状況を、活動の様子の観察や作品及び「学びの記録」の「作品制作①」の記述内容等から見取り、タブレットで「学びの記録」にアドバイスを記入し、よい作品例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。</p> <p>技 ●：＜作品制作②（清書）＞これまでの「構想・工夫の見直し①」や「相互鑑賞・意見交換①」を生かして、更に構想・工夫を見直し、知識を生かしながら再構築している状況と、資質・能力を身に付けている実現状況を、「作品制作②」の作品及び「学びの記録」の「作品制作②」の記述内容から見取り、記録に残す。</p> <p>思表◎：＜構想・工夫の見直し①＞構想・工夫の見直しをする中で、見方・考え方を働かせ、既得の知識・観点（古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成）や〔共通事項〕（書を構成する要素（「字形」「構成」）、書における運動性）を活用したり他者の感じ方や捉え方、考え方に触れたりしながら構想・工夫し、広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化している状況を、ワークシートの「構想・工夫の見直し①」の記述内容から見取り、ワークシートにアドバイスを記入して次時で返却するとともに、よい見直しの例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。</p> <p>態表◎：＜自己評価①＞自身の制作過程を振り返る中で、孔子廟堂碑の書体や書風に即した表現の実現の学習活動で知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に</p>											

付けたりすることに向けて粘り強く取り組もうとしているか、その中で作品の変化や表現の工夫の経緯、身に付けた知識と技能の振り返りで必要な修正と新たな課題について自らの学習を調整しようとしているかの両側面から、主体的に学習に取り組もうとしている状況を、「学びの記録」の「表現学習の振り返り」の記述内容から見取り、タブレットで「学びの記録」にアドバイスを記入して次時で返却するとともに、よい自己評価の例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校芸術（書道）P. 47～48、P. 59～61、P. 64～76 を参考に作成

b 単元①「楷書の書風と結構法」第1次（2時間）の学習計画【本時はその2時間目】

活動の流れ	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点 「・」指導上の留意点 「◆」支援内容	評価の方法						評価の方法の具体	
				◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価 「観」活動の様子 「ワ」ワークシート 「作」作品 「I」ICT成果物							
				知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑	観	観			
第1次 導入	15分	○単元の見通し 本次の見通し① ・本単元の流れ及び本次の学習活動を確認し、本単元、及び本次で身に付けたい資質・能力など、自身の学習の見通しについて考え、タブレットで「学びの記録」の「本単元の学習に向けて」「本次の学習に向けて」に記録する。	・本単元の流れ及び本次の学習活動について、パワーポイントで示しながら確認させ、生徒が単元の見通しをもって学習活動に取り組むことができるように支援する。 (ICTの活用)								
		○鑑賞① ・古典のよさや美しさを直感的に感受し、中学校国語科の書写で学習・習得した知識・観点を生かして書風を捉え、言語化してワークシートに記入する。 ・孔子廟堂碑の歴史的背景やその価値を理解する。	・他の古典の拡大画像を活用することで、初見の古典に対しても書風を捉えやすくさせ、それぞれに感じ方や捉え方、考え方を働かせながら直感的な鑑賞に臨めるよう働きかける。(ICTの活用)		観		ワ		ワ		
		○観点の確認① ◎書を構成する要素(字形・構成等) ・中学校国語科の書写で学習・習得した知識・観点を確認し、新たな観点を理解する。構成のうち、特に結構法の観点(向勢及びその特徴に基づく点画の形状等)から孔子廟堂碑の	・全景画像や拡大画像を提示して文字及び文字群の造形の特徴をわかりやすくしたり、他の古典の画像を提示して書風を比較したりして、孔子廟堂碑の書風と用筆・運筆との関わりを大きな視点で捉え、その表現性と表現効果について考えられるよ	ワ			ワ		観		

		書風と用筆・運筆との関わりを捉え、その表現性と表現効果について考え、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。 (グループ)	う働きかける。 (ICTの活用)					
展開 75分	○構想・工夫①	・孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想、その実現のための表現の工夫について、観点の確認で新たに習得した知識・観点を生かして考え、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。	・「鑑賞①」及び「観点の確認①」で直感的に捉え感じ取った古典の書風と用筆・運筆との関わりを「観点の確認①」で新たに習得した書を構成する要素（字形・構成等）とそこから生じる表現性と表現効果を踏まえ活用して構想・工夫に取り組めるよう働きかける。	ワ		ワ	観	
	○作品制作①	・書風と書を構成する要素（字形・構成等）とそこから生じる表現性と表現効果を踏まえ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想の実現のために表現を工夫して作品を表し、作品の写真データをタブレットで「学びの記録」の「作品制作①」に貼付するとともに、表現の工夫をしたことについて記録する。（半紙2字）	・自身が作品を表している様子を動画で撮影させ、構想・工夫の実現状況自ら調整しながら制作に取り組むよう働きかける。 (ICTの活用) ・示範動画や事例を示して、表現活動を通して用具・用材の特徴と古典の書風及び用具・用材の特徴と表現効果との関わりについても理解が深まるよう働きかける。 (ICTの活用)		作 ◎		I	技 ◎： ・作品制作を通して、表現の意図及びそれに基づく構想の実現に向けた表現活動で表現を工夫する中で、孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆等の表現の技能を身に付け表している状況を、活動の様子の観察や作品を、活動の様子の観察や作品及び「学びの記録」の「作品制作①」の記述内容等から見取り、タブレットで「学びの記録」にアドバイスを記入し、よい作品例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。
	○相互鑑賞・意見交換①	・孔子廟堂碑の書風と用筆・運筆との関係を再度確認し、見方・考え方を働かせて、他者との作品の共有・相互鑑賞を行い、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図、意図に基づく構想と、その実現のための表現の工夫等について相互に考えを伝え合うことで、新たな感じ方や捉え方、考え方に触れ、それぞれが自身の感じ方や捉え方、考え方を見直し、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。 (グループまたは全員)	・他者の作品や意見を認め合い、尊重する姿勢で活動するよう働きかける。 ・意見交換においては、それぞれの感じ方や捉え方、考え方を伝え合い、互いに他者の考え方を尊重しながら、自身の感じ方や捉え方、考え方を広げられるよう働きかける。 ◆孔子廟堂碑の書風を捉えられていない生徒に対しては、孔子廟堂碑の書風と他の古典の書風とを比較して捉えられるよう画像等を活用して示し、孔子廟堂碑の書風と用筆・運筆との関係を再度確認させ、用筆・運筆から生み出される表現性と表現効果との関係について理	ワ		ワ	観	

	解できるよう支援する。 (ICTの活用)				
<p>○構想・工夫の見直し①</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互鑑賞・意見交換を通して広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図、意図に基づく構想、その実現のための表現の工夫を見直し、必要な修正と新たな課題を適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 示範動画と作品制作①で撮影した自身の動画とを比較するなどして、広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせながら、既得の知識・観点を活用して古典の書風を分析的に捉えることで、用筆・運筆から生み出される書の表現性と表現効果との関係について理解できるよう働きかける。 古典の書風を、字形や点画の形状等の視点からのみ捉えるのではなく、用筆・運筆（書における運動性）の視点からも捉えられるよう働きかける。 (ICTの活用) ◆他者の意見の活用の仕方や、それを生かした構想・工夫の見直しの手順がスムーズに行えない場合には、活用の仕方を例示するなどして、段階的に必要な支援を行う。 	ワ ◎	ワ ◎	観	<p>知表◎：</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現の工夫を見直し修正する活動を通して、既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点（書体や書風と用筆・運筆との関わり）、併せて学習してきた〔共通事項〕の内容（時間性と運動性）について理解し、活用して、適切な用語を用いて言語化した中実感的に理解している状況を、ワークシートの「構想・工夫の見直し①」の記述内容から見取り、ワークシートにアドバイスを記入して次時で返却するとともに、よい知識の活用例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有することにより、指導に生かす。 <p>思表◎：</p> <ul style="list-style-type: none"> 構想・工夫の見直しをする中で、見方・考え方を働かせ、既得の知識・観点（古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成）や〔共通事項〕（書を構成する要素（「字形」「構成」）、書における運動性）を活用したり他者の感じ方や捉え方、考え方に触れたりしながら構想・工夫し、広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化している状況を、ワークシートの「構想・工夫の見直し①」の記述内容から見取り、ワークシートにアドバイスを記入して次時で返却するとともに、よい見直しの例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有することにより、指導に生かす。
<p>○作品制作②（清書）</p> <ul style="list-style-type: none"> 構想・工夫の見直しを踏まえ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想の実現のために表現を工夫して作品を表し、作品の写真データをタブレットで「学び 	<ul style="list-style-type: none"> 見直した構想・工夫に基づき、表現を工夫するために、示範動画（や自身の動画）を確認させるなどし、構想の実現に向けた表現活動に取り組めるよう働きかける。 (ICTの活用) 		作 ●	観	<p>技 ●：</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの「構想・工夫の見直し①」や「相互鑑賞・意見交換①」を生かして、更に構想・工夫を見直し、知識を生かしながら再構築している状況と、資質・能力を身に付けている実現状況を、「作品制作②」の作

	<p>の記録」の「作品制作②」に貼付するとともに、表現の工夫の見直したしたことについて記録する。</p>					品及び「学びの記録」の「作品制作②」の記述内容から見取り、記録に残す。
	<p>○相互鑑賞・意見交換②</p> <ul style="list-style-type: none"> 見方・考え方を働かせて、孔子廟堂碑の清書作品の共有・相互鑑賞を行い、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図に基づく構想の実現状況や、その実現のための表現の工夫の成果等について相互に考えを伝え合い、それぞれが自身の感じ方や捉え方、考え方を更に広げ、新たな考え等を適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。（グループまたはクラス全体で実施） 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の一斉掲示による共有（大画面での共有、個々のタブレットでの共有等）により、より多くの他者との相互鑑賞・意見交換できる環境を用意し、自身の学習の成果を見つめ直すとともに、それぞれに他者の学習の成果を認め合い、書のよさや美しさ、作品の意味や価値についても考えられるよう働きかける。（ICTの活用） 	ワ	ワ	ワ	
	<p>○自己評価①</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身の制作と構想・工夫の過程を振り返り、作品の変化や表現の工夫の経緯、身に付けた知識と技能を改めて見つけ直すとともに、見方・考え方を働かせて、完成した作品（清書）とその制作過程について振り返り、広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせながら自身の表現の意図に基づいて表現できたか、孔子廟堂碑の書風に即して作品を表すことができたか自己評価を行い、適切な用語を用いて言語化し、タブレットで「学びの記録」の「表現学習の振り返り」に記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の学習過程の振り返りが、次時以降の学習への見通しに繋がられるよう働きかける。 ◆自身の学習過程の振り返りとそれに対する自己評価を適切に行えない場合には、振り返りと自己評価の方法や観点について例示するなどして、今後の学習活動での振り返り、自己評価に繋がれるよう段階的に支援する。 	ワ	ワ	ワ ◎	<p>態表◎：</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身の制作過程を振り返る中で、孔子廟堂碑の書体や書風に即した表現の実現の学習活動で知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けて粘り強く取り組もうとしているか、その中で作品の変化や表現の工夫の経緯、身に付けた知識と技能の振り返りで必要な修正と新たな課題について自らの学習を調整しようとしているかの両側面から、主体的に学習に取り組もうとしている状況を、「学びの記録」の「表現学習の振り返り」の記述内容から見取り、タブレットで「学びの記録」にアドバイスを記入して次時で返却するとともに、よい自己評価の例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有することにより、指導に生かす。
まとめ	<p>○学習のまとめ①</p> <ul style="list-style-type: none"> 本次の学習を振り返り、本次の学習内容、その中で併せて学習してきた〔共通事項〕の内容について改めて確認するとともに、自他の表現した作品の意味 	<ul style="list-style-type: none"> 本次の学習を振り返らせ、本次の学習を通して習得した知識や技能、学習の中での思考・判断の過程、学習の中で働かせ広げた感じ方や捉え方、考え方について改めて確 	ワ	ワ	ワ	

■全高書研公開用 事例①（書道 I） Ver. 3

10分	や価値について考え、学習成果を生活や社会の中で生かすことについて、主体的に考え、適切な用語を用いて言語化し、タブレットで「学びの記録」の鑑賞学習の振り返りに記録する。	認させることにより、自身の学習の成果を実感させるとともに、自他の表現した作品の価値とその根拠について主体的に考え、作品の意味や価値について考えたり、学習成果を生活や社会の中で生かしていきたいと主体的に考えたりできるよう働きかける。					
◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価			◎	◎	◎	◎	◎

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.47～48、P.59～61、P.64～76を参考に作成

10 年間指導計画

※ここでは指導事項を「A表現(1)」のように示すなどしているが、必ずしも本事例の通り示さなければならないわけではなく、各都道府県等で決めた様式で示すことになる。ここでの事例1・2では異なる書式で示している。

計70時間（内訳：漢字仮名交じりの書20時間 漢字の書32時間 仮名の書12時間 鑑賞6時間）

※鑑賞の時間数について、「A表現」との複合的な単元の時間数は含まれていない。

期	単元 学習内容	学習のねらい 学習活動 等	時 数	知識及び技能 (知識・技能)	思考力・判断 力・表現力等 (思考・判断・表現)	学びに向かう 力・人間性等 (主体的に学習に取 り組む態度)
前期	1 オリエンテーション	○中学校国語科書写から高等学校芸術科書道への接続について理解する。【B鑑賞】	36	○日本及び中国等の文字と書の伝統と文化	○生活や社会における書の効用	○主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
	2 鑑賞① (手書き文字と活字)	○手書き文字について学習し、活字と手書き文字の特徴について理解を深める。【B鑑賞】		○漢字の書体の変遷、仮名の成立等	○生活や社会における書の効用	○主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
	3 漢字の書① (楷書の書風と結構法)	○漢字の書について、楷書の臨書や創作活動を通して楷書の用筆・運筆と表現効果について理解し書風に基づく表現の技能を身に付ける。 【A表現】【B鑑賞】		【知表】○用具・用材から生み出される書の表現性とその表現効果 ○書体や書風と用筆・運筆との関わり 【技】○古典に基づく基本的な用筆・運筆や古典の線質、字形 ○構成を生かした表現の技能 【知鑑】○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり ○書の伝統的な鑑賞の方法や形態	【思表】○古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 ○意図に基づいた表現 【思鑑】○作品の価値とその根拠や生活や社会における書の効用	【態表】○主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとする。 【態鑑】○主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
	4 漢字の書② (楷書の書風と線質(筆圧の変化))					
	5 漢字の書③ (楷書の書風と線質(円筆・方筆))					
	6 漢字の書④ (楷書の創作)					
	7 仮名の書① (変体仮名)	○仮名の書の基本について理解し、仮名の美の特徴である変体仮名や連綿について理解し仮名の表現の技能を身に付ける。【A表現】【B鑑賞】		【知表】○用具・用材の特徴と表現効果との関わり 【技】○古典に基づく基本的な用筆・運筆 【知鑑】○漢字の書体の変遷、仮名の成立等	【思表】○古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 【思鑑】○作品の価値とその根拠	【態表】○主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとする。 【態鑑】○主体的に幅広い鑑賞の学
	8 仮名の書② (単体と連綿)					

前期		賞】			習活動に取り組もうとする。
	9 漢字仮名交じりの書① （楷書の応用）	○漢字仮名交じりの書による作品制作を行い、漢字と仮名の調和等について理解し、漢字の書及び仮名の書で身に付けた表現の技能を深める。 【A表現】【B鑑賞】	【知表】○名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり 【技】○漢字と仮名の調和した線質による表現 【知鑑】○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり	【思表】○漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成 ○名筆を生かした表現や現代に生きる表現 【思鑑】○生活や社会における書の効用	【態表】○主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとする。 【態鑑】○主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
	10 漢字仮名交じりの書② （筆脈と字形）	○漢字の書の行書の導入として、漢字仮名交じりの書を半紙に速書きすることにより行書の特徴を理解し、行書の基本的な表現の技能を身に付ける。【A表現】 【B鑑賞】	【知表】○用具・用材の特徴と表現効果との関わり 【技】○目的や用途に即した効果的な表現 【知鑑】○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり	【思表】○目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現 【思鑑】○生活や社会における書の効用	【態表】○主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとする。 【態鑑】○主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
	11 漢字の書⑤ （行書の運筆の基本と書風）	○漢字の書について、行書の臨書や創作活動を通して行書の特徴を理解し、行書の表現の技能を身に付ける。【A表現】 【B鑑賞】	【知表】○用具・用材から生み出される書の表現性とその表現効果 ○書体や書風と用筆・運筆との関わり 【技】○古典に基づく基本的な用筆・運筆 ○古典の線質、字形や構成を生かした表現 【知鑑】○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり ○日本及び中国等の文字と書の伝統と文化 ○書の伝統的な鑑賞の方法や形態	【思表】○古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 ○意図に基づいた表現 【思鑑】○作品の価値とその根拠 ○生活や社会における書の効用	【態表】○主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとする。 【態鑑】○主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
	12 漢字の書⑥ （行書の創作）				
後期	13 漢字仮名交じりの書③ （漢字の書の応用）	○漢字の書の楷書と行書の学習を生かして漢字仮名交じりの書による作品制作を行い漢字と仮名の調和等について理解し、表現の技能を高める。【A表現】【B鑑賞】	【知表】○名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり 【技】○漢字と仮名の調和した線質による表現 【知鑑】○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり	【思表】○漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成 ○名筆を生かした表現や現代に生きる表現 【思鑑】○作品の価値とその根拠	【態表】○主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとする。 【態鑑】○主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
	14 鑑賞② （地域の碑の鑑賞）	○地域の碑を鑑賞して漢字と仮名の調和や日常における書の効用、日本の文字と書の伝統と文化などについて理解を深める。【B鑑賞】	○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり ○日本の文字と書の伝統と文化	○作品の価値とその根拠 ○生活や社会における書の効用	○主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
	15 仮名の書③ （散らし書き）	○仮名の書の臨書や創作を通して、仮名の美の特徴や連綿、散らし書きへの理解を深め、仮名の書の表現の技能を身に付ける。【A表現】【B	【知表】○線質や書風と用筆・運筆との関わり 【技】○連綿と単体、線質や字形を生かした表現 【知鑑】○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり	【思表】○意図に基づいた表現 【思鑑】○作品の価値とその根拠	【態表】○主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとする。 【態鑑】○主体的に幅広い鑑賞の学
	16 仮名の書④ （仮名の書の創作）				

後 期		鑑賞】			習活動に取り組もうとする。
	17 漢字仮名交じりの書④ （仮名の書を応用した作品制作）	○仮名の書の学習を生かして漢字仮名交じりの書による作品を制作し、漢字と仮名の調和等について理解を深め、仮名の表現の技能を高める。【A表現】【B鑑賞】	【知表】○名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり 【技】○漢字と仮名の調和した線質による表現 【知鑑】○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり	【思表】○漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成 ○名筆を生かした表現や現代に生きる表現 【思鑑】○生活や社会における書の効用	【態表】○主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとする。 【態鑑】○主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
	18 漢字の書⑦ （篆書の字形と筆法）	○漢字の書について、篆書の臨書を通して篆書体の字形や筆法の特徴等について理解し、篆書の表現の技能を身に付ける。 【A表現】【B鑑賞】	【知表】○書体や書風と用筆・運筆との関わり 【技】○古典に基づく基本的な用筆・運筆 【知鑑】○漢字の書体の変遷、仮名の成立等	【思表】○古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 【思鑑】○生活や社会における書の効用	【態表】○主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとする。 【態鑑】○主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
	19 漢字の書⑧ （篆刻作品制作）	○漢字の書の篆書の学習で身に付けた字形や線質の特徴を生かして、篆刻作品を制作し篆刻による書の表現について理解を深め、篆刻の表現の技能を身に付ける。 【A表現】【B鑑賞】	【知表】○用具・用材み出される書の表現性とその表現効果 【技】○古典の線質、字形や構成を生かした表現 【知鑑】○書の伝統的な鑑賞の方法や形態	【思表】○意図に基づいた表現 【思鑑】○作品の価値とその根拠	【態表】○主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとする。 【態鑑】○主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
	20 漢字仮名交じりの書⑤ （作品制作・学習のまとめ）	○書道Ⅰのまとめとして、漢字仮名交じりの書による作品制作を行い、用筆・運筆による表現効果や全体構成、漢字と仮名の調和等について理解を深め、漢字仮名交じりの書の表現の技能を高める。 【A表現】【B鑑賞】	【知表】○用具・用材の特徴と表現効果との関わり ○名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり 【技】○目的や用途に即した効果的な表現 ○漢字と仮名の調和した線質による表現 【知鑑】○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり	【思表】○漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成 ○目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現 ○名筆を生かした表現や現代に生きる表現 【思鑑】○生活や社会における書の効用	【態表】○主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとする。 【態鑑】○主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

11 参考資料・参考文献等

- ・授業で使用する資料、関連データ等
（ワークシート、ルーブリック、評価セッション・パフォーマンスシート、アンケート等の数的資料や分析データ 等）
- ・学習指導案を作成するに当たり、引用したり参考にしたりした資料等
 - ・高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説芸術編
 - ・小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）
 - ・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道） 他